

# 日本物志向・会社の姿勢を伝える

# 日本の心八王子本店

## 全ての仏壇を「国産」にすることに意味がある

日本の心八王子本店には年間1万8千人のお客様が来店される。365日営業で一日50人来店があるが、取材で八王子店に居た三時間の間に、続々とお客様が入ってこられた。仏壇の下見にやっつこられたお客様、腕輪珠数の修理に來られたお客様が墓石の相談もされている、お線香のお客様と様々だが、日本の心八王子本店が展示する

仏壇は全て国産仏壇。店舗の外には「日本物志向」の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている。

日本の心八王子本店は、どうして国産仏壇100%という展示を選んだのだろうか。「中国産の仏壇でカビが生えている、傷が多い、乾燥剤が中でおちまけられているなどというトラブルが続いたことが一つのきっかけです。こんな仏壇を仕入れることはもとより、お客様に販売すること自体が耐えられないと思いました」と日本

の心統括本部長の古川好延氏は振り返る。「何かトラブルがあれば『修理をするのは小売店の仕事』という感覚のメーカーさんもあり、ちゃんと責任を持って修理してくれるメーカーさんとお付き合いしたいと強く感じるようになりました」

展示品の国産化を目指したものの、当時国産仏壇を多く揃えているメーカーはほとんどないので仕入れの幅が狭くなる。当然売れ筋価格帯の商品も減少する。「経営として国産品だけで成り立つのか」という恐怖感もある。

経営トップの判断は「八王子本店はテストケースとして国産展示をしてみよう」というものであった。日本の心は八王子本店の他、相模原店、青梅店、飯能店があり、当初は八王子本店での試みという位置付けであった。

国産仏壇のみの展示を目指す場合、現在展示している海外産仏壇を販売しながら国産仏壇を仕入れ、少しずつ国産仏壇化をして行くことになる。ところが展示してある海外産仏壇の全てを売り切ることが難しい。「私は当時八王子本店の店長でしたので、他店の店長に『国産品と取り替えて欲しい』ということもできたのですが、はじめのうちは同僚である他店店長にそのようなお願いをするのは難しく、最後の最後になってようやくお願いして海外産仏壇と国産仏壇を入れ替えて国産展示にすることができました」と当時のことを振り返る。

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている



ラフな感じが入りやすいお店をつくりだしている



日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている

日本物志向の幟がはためき、店内には「日本物志向」のサインマットが敷かれている



100% 国産品をPRするPOP、同店スタッフの写真を用いており、インパクトが強い



都市型仏壇(上置)の展示



都市型仏壇(台付)の展示



ショーウィンドーでも「全て国産品」をアピール



ショールーム随所に日本物志向のPOPを配置



日本物志向 = 国産品のイメージの浸透を図る

### 原点は祈る人々の美しい姿

取材をしながら気づいたことのひとつが店内の音楽。なんと歌詞入りの洋楽が流れている。これは全国の仏壇店でも珍しいことだ。  
実はこの音楽も古川部長の仕掛けであるという。「店内音楽は以前から流していましたが、その頃の音楽はいかにも仏壇店という音楽。それをジャズにして、さらに歌詞入りの音楽にしました」というその有線音楽は雑貨店やカフェでよく流されているものだという。

スタッフには制服はなく、古川部長ご自身はジーンズに洒落たジャケット姿。このラフな感じが、お店の入りやすさを作り上げているのだ。

古川部長は曹洞宗の寺院で得度しており、ご自分の絡子も持つ。それをごだわりの特注の絡子だ。

「仏壇店にとって大切なことは、祈ることの尊さ、美しさをお客様に伝えること。先祖供養の大切さを仏教の話を交えながらお客様に伝え、思いを共有すること。そこにこそ専門店としての仏壇店の意味がある」という。



古くからお店を見守る仏壇 社員の礼拝の場となり お客様がお供物を供えることもある

古川部長のこの思いの原点は若い頃、アジアをバックパッカーとして旅している時に何度も目にした、アジアの人々の祈る姿にあるという。人目を気にせず祈る姿の美しさが、古川部長の思いの原点にある